

北神塾 第一講「国家の物語－なぜ政治を志したのか－」①

平成26年5月9日

北神 圭朗

- 私の生い立ちの中で「国家」がいかに大切かを肌身で感じる
 - ・ ベトナム人の友達。
 - ・ 自分がいくら国家は関係ないと思っても、国家は「つきまってくる」。
 - ・ 平成3年の「湾岸戦争」での日本の反応。「当事者意識がない」＝「無責任」＝「非倫理的対応」
- 「国家」と「国民」の関係は？
 - ・ 「国家」とは何か。秩序（安全と安定）をつくるもの。
 - (1) 国内は、軍隊、警察、法律、教育等により、生活の安定もなく、混乱か、「強い者勝ち」の世の中になる。(ホブズ)
 - (2) 対外的には、外交防衛により、外国からの侵略を防ぐのみならず、貿易や人の移動等を管理する。
 - ・ 「国民」とは何か。民族または民主主義あるいは両方によって、「国家」と一体化している住民。
 - (1) 近代国家は、基本的には、「一民族一国家」
 - (2) 民主主義は「国民主権」であり、国家は、国民の意思を体現するもの。
 - (注) 日本国憲法 第一条「天皇は、日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であつて、この地位は、主権の存する日本国民の総意に基く。」
 - ・ とくに民主主義の国家は、国民ひとりひとりが、自分の国家に帰属意識と愛国心をもたないと成り立たない。(モンテスキュー)
- 「国家の物語」に必要性

以上